

亀山南学区 (亀山南学区コミュニティ交流協議会が運営)



わがまちについて

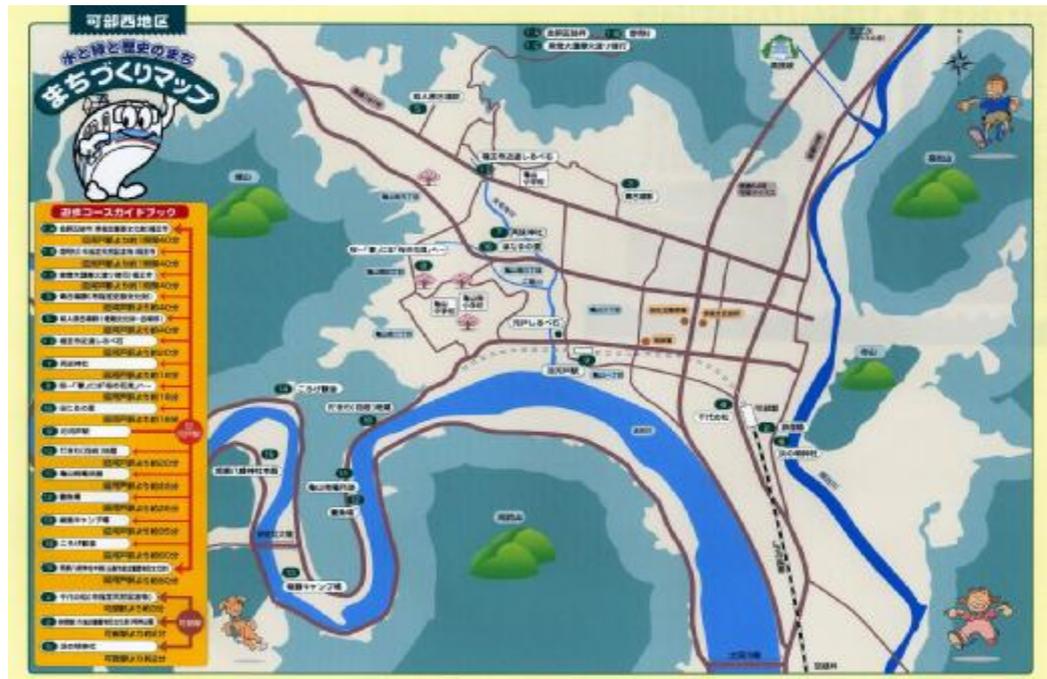
わがまちの名所・旧跡・ホットスポット

NEW 観光案内板を設置しました (2月5日更新)

ダイキ可部店前の道路沿いに亀山南観光案内板を設置しました。来訪された皆さんの参考になれば幸いです。



可部西地区まちづくりマップより転載しました



[地図の拡大はこちら](#)

4 可部町中野の千代の松(市指定天然記念物)

可部1丁目
地上1mのところから、大きく東西に枝を広げたこの御松は、横が太く左右に手を覆いたような形から「猿渡つくり」と言われています。太田川に川舟が多く行き来していたころ、ここに舟問屋の御松があり「大下御松の松」という名で呼ばれていました。大正時代、当時の可部町長が「可部八景」の一つとしてこの松を「千代の松」と題して植えたことから、この名で呼ばれるようになりました。



5 給人原古墳群(埋蔵文化財-古墳群)

亀山1丁目
「3. 古墳群」を参照



6 浜の明神社

可部2丁目
「サンクロピッツ」のちで知られている近所最大の祭です。浜神社からの分霊を受けたのが始まりです。毎年7月、翌年の管領祭の二日に合わせています。



7 高延神社

亀山南3丁目
百雷と称され、八幡神を祀る。1190年(建久元年)湖山城主武田大膳入道が、宇佐八幡を下四日市村に勧請し、1253年(建長5年)同寺を守護神が白山山に遷したと云われています。その後、近衛12村の氏神として崇拝され、明治8年2月神社となった由緒ある宮です。正徳調査によると、慶長5年三宅兵衛高範が建立し、社殿3白鹿を寄附したとあります。



8 桜～「春」には「桜の花見」へ～

亀山南学区自治連絡協議会では、「花のあるまちづくり」にも取り組む。桜の木の多い亀山南小学校、亀山中学校の両園や和山団地内などに毎年46年間に数百本を植えたのをはじめ、平成9年に開催された「グリーンフェスタ」も主催し、への協賛として第1次から第4次にわたり植えた445本の桜が満開になります。桜の花見にも是非お出かけ下さい。



[ホーム](#)
[わがまちについて](#)
[わがまちの沿革](#)
[可部線電化延伸を目指して!!](#)
[螺山の登山案内](#)
[女性会の活動](#)
[第3回写真展特集](#)
[安心・安全なまちづくりを目指して!!](#)
[災害に強いまちづくりを目指して!!](#)
[地域かわら版](#)
[わがまちの名所・旧跡・ホットスポット](#)
[祭りだワッショイ・ワッショイ特集](#)
[とんど](#)
[地図](#)
[まちのお知らせ](#)
[まちのカレンダー](#)
[まちのアルバム](#)
[緊急のお知らせ](#)
[広島市からののお知らせ](#)
[区役所からののお知らせ](#)
[リンク集](#)

9 旧河戸駅

1956(昭和31)年12月20日開業。2004(平成16)年11月30日、可部駅～三段峠駅間の廃止とともに現在、使用されていないが、地域が一体となり、可部駅から河戸駅行向まで公園化延伸を行い駅の復活に向けて取り組んでいます。

武田正弘(可部地域の先人)

四日市(河戸)の生まれ、幕府天文方 勘 の門下生として剣術学を修め、益壽利源方となり功績を残しました。一方、門路を教育して多くの人材を出しました。

蘇家と可部西地区との縁

湖山町は、柳瀬に参訪の際、その農格を「山梨水明の邸」と尊貴しました。湖山町の祖父新吉氏は、1806(文化2)年五島海野舟實藩侯の藩内逃病に随行した際に、河戸で「くたりやなど打ちてけりは平山ぬがちの蘇家がいくちり行ひ」と称歌し、「吾輩は河戸といふ國とやどり給う。晴つかぬわざなど見給え」とと太田川で蘇家とみたと昔の詩歌をうたったもので、この頃太田川では蘇家が蘇子の名物として行われていたことが伺えます。さらば河戸という所にて蘇(貴)の館をとる。大や心を見たまふに、川の左右より、石をたみて流れをさへせり、中なる空し所に、竹をしがらみて流を鮎をとる。その音みやたくましろ、よき見ものなりけり」と、当時の太田川の風物詩をさかさまに表現していて、誠にゆかしいです。

日本一 河戸の鯛川義徳氏

1955年(昭和30年)10月10日 全国中小等漁共済会(東京で開催)で、可部町西日市の 鯛川義徳氏出席の日本が全国一席に入賞しました。



日本一 亀山南小学校バレーボール 男子チーム

2000年(平成12年)8月11日 亀山南小学校バレーボール男子チームは、東京都体前館で開催された「ライオンカップ第20回記念全日本バレーボール小学生大会」で全国優勝しました。

出場選手(順序不詳)
佐々木 勇・安藤 如秀・迫谷 山本 博司・吉本 和弘・豊田 竜児・山重健太郎
計一・山本 竜次

河戸の名産 御用柿・鮎

① 河戸の御用柿
江戸時代に四日市村の河戸(現在の亀山一・二丁目等)で生産されていた西条柿は、広島藩が將軍家への献上品として「御用柿」に指定されたことから有名になりました。柿むぎの字跡には、広島藩は河戸に「御用屋」と称する役所を設け、役人が常駐して、柿の集荷、精選、輸送を仕切っていました。柿むぎは、所産農家の女子が、産直な新橋下で行った。女子は陰い目こそすりながら夜遅くまで「柿むぎ歌」を口ずさんだ。この歌は次第に昇進、この地方の「後なや歌」に広く歌われるようになりました。「御用柿」は川筋で広島へ輸送され、山梨には「御用柿」を示す「頭じるし(木製)」を立てていた。その標識は今も山本幸狂氏宅に保管されています。

② 河戸の鮎
「河戸の御用柿」と同じく鮎も將軍家へ献上されていました。

10 だきわ(抱岩)地蔵

太田川左岸、赤白山麓の高い岩盤を削り開いたもので、地蔵の前も急傾斜で近づいてお参りすることは困難です。

[ログイン](#)
 ユーザ名: _____

パスワード:

ログイン
SSL

幅32cm、高12cmの柱。弘徳の興隆「貞保3年、亥十月」とあります。



11 亀山発電所

1912(明治45)年7月、当時の広島電灯会社が太田川に建設した最初の水力発電所でした。建設当時の概算は、使用水量・毎秒27.8m³/s、有効落差13.6m、水路延長2,025m、水車1,040馬力(スイス製)3台、発電機700kw(イギリス製)発電容量2,100kw。1973(昭和48)年3月に60年次の歴史を閉じました。現在は、太田川漁業合同組合の事務所です。



12 養魚場

太田川漁業合同組合経営で鮎などを養殖し販売を行っています。魚群も健全に育っています。



13 柳瀬キャンプ場

柳瀬山頂が「山崎水術の壱」と譽れを博し、洋画家の巨匠・南無正統に竹野亭の号、村一氏は、「山崎の壱」と清徳の如き水術と愛し、惜かに進んで豊後社であった。かつて、将軍は太田川の堤

流に沿った自然豊かな一日の行楽に最適な所で、林間にキャンプを張り、太田川の清流で水遊び、生き物の良い匂いに舌つみをする、疲れを癒し、明日への活力を養う憩いの場所として、春から秋には多くの人が訪れていました。地元では、往時のような利用による賑わいを取り戻すため、種々の企画を検討しております。



14 ころげ観音

この巨石は、昔の記録に「去年年の大地震によって転げ落ちた観音。弘法大師の御宇」とあるとのことです。嶺山の中腹あたり、空欄するあづまものが、転げ落ちて現在地に留まったのである、とも言われています。毎年3月18日に地元の人たちで、祭りが行われています。



15 簡瀬八幡神社本殿(広島市指定重要有形文化財)

所在地は、安佐北区安佐西大字簡瀬。構造形式から、江戸中期の立派な建造物とされています。社殿は広島市の指定天然記念物になっています。



16 ほたるの里

大毛寺川及び上島川を「ほたるの里」に再生すべく、亀山南学区自治会連絡協議会、阿ココミュニティ交流協議会が「ほたるの光の乱舞」再生に取り組んでいます。

太田川沿いの探訪

太田川は、上流の豊かな森に育まれて食糧で豊富な水量を保ち、広島県廿日市市吉和の中国山地に豪流を舞って広島湾に注ぎ、その延長は102.9kmです。可部地域は、その太田川の中流頃に位置する歴史の古いまちで828(天長5)年弘法大師(空海)が権主寺を創設され、1319(元徳元年)年には簡谷直時が高松城を築城したことにより城下町として栄えました。さらに、陸路を結ぶ交通の要衝としても重要な位置を占め、母なる川太田川の豊かな水量と良い水質は、住民の生活を潤すばかりでなく、地域では高酒・醤油の醸造、食品関係の生産をはじめ、鮎物・山崎などの地場産物の発展にも貢献していた。また、河戸の橋・結は吾輩にも献上され、かつては河戸の名産品でもあり、一方、太田川の「帆船舟舟」による水運の活躍は目覚しく、1920年代(昭和前期)までは、太田川には橋は少なく、広島へ行く人や物資の輸送には、この舟が活躍していた。しかし、運送で舟は発着場所等に記録されていた模様で、時期によっては、可部50歳、河戸43歳との記事もあります。1910(明治43)年に可部線の開通で広島との関係が一層深まり、都市近郊のまちとして独自の発展を遂げました。さらに、21世紀の新たな街づくりに適応できるように、「水と緑と歴史を生かした『千客万来のまちづくり』」に地域を挙げて取り組んでいます。多くの人のご訪問や定住を心からお待ちしております。

紹介

旧河戸駅→河戸しるべ石→反川橋→神宮神社→だきわ(抱石)地蔵→亀山発電所跡(スイス製発電機)→養魚場→柳瀬キャンプ場→ころげ観音→簡瀬橋→簡瀬八幡神社→安佐北大橋→柳瀬→復路。



福王寺山門

編集

可部西地区まちづくり協議会

編集協力

広島市安佐北区区政振興課
広島市安佐北区可部西丁目13-13
TEL082-819-3905
広島市道路交通局都市交通部

亀山南地区にあるお寺さんお宮さんの紹介

私たちの地域には社寺・仏閣とは申しませんが、いくつかのお寺さんとお宮さんがあり、地域住民の心の支えとなっています。ご紹介させていただきます。尚、此処にある内容は、亀山南魅力探訪マップから転載致しました。

お散歩がてらにお参りしては如何でしょうか？ 案外お宝が発見できるかも。ゆっくりしても3時間弱です。

①瑠璃山医王寺(河戸 杉薬師)～亀山一丁目22番に所在

<p>広島新四国88ヶ所霊場 20番霊場</p> <p>本尊 薬師如来 脇士 観音菩薩 勢土菩薩 12神将</p> <p>行基作伝</p> <p>抑杉薬師如来ハ 養老年中 行基二勅シテ 諸国二国分寺ヲ建テ仏像ヲ安置セシメ玉フ 砌行基此処ニ至リ潜リニ一奇杉ノ木ノ勝瑞ヲ睹テ 是末世ノ衆生済度ノ先非ナリ ト悟リ玉ヒ此尊ヲ彫辨シ一当ヲナシ玉フニ貴賤市ヲナシ 奇験ノ着コト信心ノ人ニ応驗新ナリト雖季予円衰ニシテ 時二頻廢シ世ノ人はヲ知ラザル事ナシ 親ク太田川ノ辺ナレバ洪水ノ為ニ堆流シ玉フ 事若干ナリトイヘ共毎度不思議ノ靈意ノ夢ヲ感スレハ強信ヲ起シ如此ノ靈仏雨露ノ為ニ朽サセ玉フ事ヲナゲ歎キ一字ヲ造立シ又ハ東現ニ</p>

	<p>依テ外像ヲ彩修シテ本ノ古仏ヲ奉納シ訖本尊ヲ刻候 杉ノ株工松ノ枝ヲ差置シ候如其松生付繁茂セシ由 其松大樹ト成今ニ在此松枝逆ニ差置玉フ故松枝間ニ逆ニ附居申候</p>	
<p>お堂をクリックするとご本尊と12神将が拝観出来ます。但し、無料です。どうぞ</p>	<p>右ノ通相違無御座候 以上 文政二年巳卯三月 下四日市 庄屋 竜助 同 甚三郎 組頭 喜七郎</p>	

◎薬師如来は、東方琉璃光世界の教主で、人間の病苦を癒し、苦悩を除くなど12の誓をたてた如来で薬師瑠璃光如来とか大医王仏とも呼ばれている。

◎12神将は、12薬(夜)又大将ともいい、薬師如来の眷属である。薬師如来の12の大願に応じてあらわれる薬師の分身と言える。像容は一定せず普通は甲冑を付けた忿怒像だが、中には人身獣頭像もある。

◎例祭は毎年5月8日に行われます。その様子は次の写真をご覧ください。



例祭の様子



例祭の様子



福王寺 亀尾副住職さんの読経



住民の健康を祈願しての数珠送り

②宝原山徳行寺～亀山二丁目17番に所在



宝原山と号し、もと真言宗であったが、1601(慶長6)年、僧 了念が真宗に改めた。

春は樹齢60年の桜が綺麗です。

③楠昌山誓立寺～亀山二丁目21番に所在



楠昌山と号し、もと禅宗であったが1617(元和3)年、「円超」が真宗に改めた。

④強像山報恩寺～亀山四丁目5番に所在



強像山と号し、もと天台宗であったが、1538(天文7)年、僧 明休が真宗に改めた。

境内には、高宮郡初の人体解剖記念碑があります。

可部町に開業医の研究グループ「順和社」があり、会員の新知識と技術の向上に努めていた。

明治16年1月、斎豊次会員の次女9歳が脊髄病で死去した。母は「解剖が医学の向上に役立てば…」と理解・解剖した。これを記念として会員が「報恩寺」境内に記念碑を建てた。

⑤光西寺観音堂～亀山四丁目17番に所在



光西寺は、元は、現在の亀山南小と亀山中辺りにあり、記録では廃寺になっているが創建は不詳。大正12年8月、現在地にお堂を建立し移転したと言われている。本尊の聖観音は高さ20cmの金箔の立像。

祭りは、4月14日におこなわれている。

⑥河戸神社(惣社大明神)～亀山二丁目18番に所在



創祀年代は不詳、1819(文政 2)年の国郡志御用下調査に、要旨「此神社八柱古神武天皇当所御逗留ノ跡工建立仕候…略…当時地名二相成申候武田氏代々御再興御座候由伝候」。

「毎年3月15日祭礼 大毛寺社人末田美ノ守ヲ履神事仕候」ト庄屋が作成し藩に提出。(現在は、4月第二日曜日に祭礼が行われている)

⑦伊勢神社～亀山南三丁目32番に所在



亀山公民館前付近で桜の花見をし、さらに亀山中・亀山南小・虹山南公園周辺の「20世紀記念桜」を満喫し、太田川方向に下り、伊勢神社に至る。

伊勢神社の創立は不詳ですが、昔日、お伊勢参りする者は、出立ちと帰着にはこの神社に報告する習慣があったと言われている。

⑧荒人神社(神宮神社)～亀山南一丁目18番に所在



1777(安永 6)年の村の記録に「神宮一社、祭神は神倭伊波礼毘古命」と記されているがご神体は仏像。

太田川の岸にあったが、1815(文化12)年現在地に遷座。

巨大な石灯笼は一見の価値がある。祭りは4月14日頃の日曜日

⑨大歳神社(ださあさん)～亀山四丁目7番に所在



創祀年代は不詳。

兩延神社の北辺の守護神として奉斎したものという。

中世、この地の行貞城の城主が社殿を寄進したとも伝えられている。

昭和44年の虹山団地造成に伴い現在地に遷座。

祭りは4月14日とされている。この一帯は桜の花見コースです。

⑩龍王神社(ぢおうさん)～亀山南三丁目25番に所在

虹山下余館の下側に小さなお堂があり、堂中に約30cmの龍王像が安置されている。1819(文政 2)年 大毛寺村の庄屋作成の古文書に「龍王池、中に小島あり土器山と名付け……神供の土器を捨て申す島に御座候」とある。



[▶ プライバシーポリシー](#) ▶ [サイトポリシー](#) ▶ [ご意見・お問い合わせ](#) ▶ [著作権について](#) ▶ [免責事項](#) ▶ [総合ページへ戻る](#)

Copyright (C) 2005 com-net hiroshima. All rights reserved.